

## 要 点 録

会議の名称	第5回田村駅周辺整備基本構想推進会議
開催日時	平成30年1月23日(火)午後1時30分～午後3時10分
出席者	仁連 孝昭 滋賀県立大学 名誉教授 辻村 忠嗣 田村町まちづくり委員会 委員長 川崎 他家廣 長浜地方卸売市場株式会社 代表取締役 若林 浩文 長浜バイオ大学 理事長 伊藤 寿彦 六荘地域づくり協議会 総務部長
欠席者	綺田 新 田村町自治会 自治会長 井 経子 社会福祉法人石龍会 チャイルドハウス 園長 畑下 嘉之 社会福祉法人青祥会 理事長 西嶋 照毅 滋賀県長浜土木事務所 所長 松本 秀章 滋賀文教短期大学 副学長 金子 剛士 一般社団法人長浜青年会議所 新湖北創造委員会 委員長
	(敬称略)
事務局(長浜市)	長浜市都市建設部:米澤部長 中川技監 長浜市都市建設部都市計画課田村駅周辺整備室:嶋田課長兼室長 塚田副参事 山口主幹
会議概要	1 開会の辞 会議を公開とすることについて報告 2 あいさつ 長浜市都市建設部 米澤部長 3 第4回推進会議の結果について 第4回要点録で結果を報告する。 →委員から要点録の一部修正の依頼があり、承認。 4 議事 1) 田村駅を中心とするまちづくりビジョンコンセプトについて － 事務局から説明 － 2) 田村駅周辺整備基本計画(素案)について － 事務局から説明 －

3) 主な質疑、意見等 (○：アドバイザー、・：参加者、→：事務局)

<田村駅を中心とするまちづくりビジョンについて>

- ・10年後、30年後の田村駅を中心とするまちづくりビジョンのコンセプトということで、キーワード等は今まで議論してきたものだと理解している。資料3で「田村まちづくりビジョンのコンセプト」とあるが、駅という言葉が抜けているのは何か意図があるのか。  
→「田村駅を中心とするまちづくりビジョン」というフレーズが何度も出てくるので、略語として「田村まちづくりビジョン」としている。
- ・駅周辺という言葉は大事だと思う。周辺の自治会の方が過敏に反応されるかもしれないので、略語については慎重に扱ってほしい。  
→ご意見を踏まえて、修正する。
- 田村駅を中心とするまちづくりということで、駅は重要な構成要素である。現在の田村駅は東と西をつないでいないため、西側の大学やドーム、東側の農村地と卸売市場がバラバラにあり、相乗効果が生まれていないことが一番の問題点だと思う。駅が周辺に立地している機能を結節点として結びつけ、まちを作り出していく拠点となっていく必要がある。そのために、周辺の施設をまちづくりに結び付ける仕組みづくりが大事であり、駅を中心としたまちづくりのイメージを共有していく必要がある。このため、ビジョンの表現としては、駅という言葉はあった方が良い。
- ・資料3に市街化区域の拡大とあるが、将来的には駅の西側の北、湖側の田んぼのあたりの住宅開発も考える必要があると思う。  
→このビジョンは第2回推進会議で仁連アドバイザーに頂いたご意見を参考に作成しており、駅の東側に住宅地を整備するという絵になっている。ご意見のあった農用地が農業振興地域かつ市街化調整区域であり、基本計画で示す10年後にそれらが外れる見込みもないため、当該地に住宅地整備を示すのは現時点では難しい。まずは、市街化区域の中を整備していくことによって、次に外側に波及効果が生まれるのではないかと考えている。

<田村駅を中心とするまちづくりビジョンのコンセプトについて>

- ・滋賀県の人の交通手段は基本的に自動車である。大学だけでなく地域の人がどういう駅や施設を望むのかということが重要だと思う。田村町だけでなく、周辺の人々が駅を活用することで拠点が生まれる。そのための駐車場や商業施設、住居、教育施設が必要となってくる。地元の人と学生では考えることが違うと思うので、大学が地元に入り込んでいけるようにしたい。また、コンセプトはこのための重要なキーワードになるので地元の思いを大事にした方が良い。
- ・地元の思いとしては、将来的に商業系の施設を求める声が多いが、住宅が増えない中で商店はできないので、住宅建設の促進がまず必要になり、そのために住み良いまちとしていきたい。
- ・長浜の人口流出の歯止めをするうえで、働ける場所、住む場所の確保が長浜南部の開発で必要となってくる。また、市場の中の店舗に聞いてみたところ、「次の代につなげていけるのであれば協力できる」という声があり、卸売市場としても一定の協力はできる。  
→「駅を中心に」、「つながる」といった考えをまちづくりコンセプトにぜひ取り込んでいきたい。今回のコンセプトでは、10年間の取組の具体的なイメージを示すものとしてほしい。公共によるハード整備だけでなく、地域の人々が主体的に関われるまちづくりとして何をどうしてい

くのかを示していきたい。施設が個々にあるだけでは相乗効果が生まれず、駅を中心としたまちづくりを行う上で、相乗効果を生むような将来構想としていきたい。コンセプトとして委員の意見に近いのは④の案だが、付け足すものなどがあればお聞きしたい。

- ・湖に近い駅、まちという特徴があるため、それを含めてほしいという思いはある。  
→田村駅の特徴になるので反映していきたい。本日頂戴した各委員の意見を踏まえて、コンセプトとしては④を基本に仁連アドバイザーと相談の上決定する。なお、基本計画の対象期間は10年としているが、5年での見直しを考えている。

#### <卸売市場について>

- ・この地域のまちづくりを考えたとき、中心にあるのは卸売市場であり、一番大事なことは卸売市場が10年後どうなるのかではないか。
- 卸売市場については、将来計画を作られる予定はあるのか。
- ・将来計画については、滋賀県が計画策定する予定であり、その中で、3年以内に各地方卸売市場で経営戦略を練ることとしている。卸売市場法が来年度国会で審議予定であり、地方卸売市場については、国ではなく県が管轄するという流れになってきているので、今の市場法より緩和されるのではと考えている。いずれ市場自体は移転せざるを得ないが、そのための費用がないのが現状である。10年後、15年後といった将来構想の中には市場は無くてもいいかなと個人的には思う。  
→この10年で市場が移転するのは難しいというお話だが、移転しないのであればこの10年地域に開かれた市場がどうすればできるのかを地元の方々と一緒に考えていきたい。

#### <基本計画(素案)について>

- ・先ほども意見が出たが、15ページ以降で「田村まちづくりビジョン」と略されているが、駅を中心としてのまちづくりなので、駅という言葉が無いとインパクトが弱くなる。  
→文言修正する。
  - ・25, 26ページで複合施設が東口側にあるのは意図があるのか。  
→駅前広場を整備する上で、まず空間的に設置できるスペースがあるかというところと、駅利用者の実態を踏まえた上で、東口の方がより乗る駅の顔としての特性が強いと考えた。
  - ・地域の人もドームに来る高校生も、施設を使うのは降りるときより乗るときというのは一理ある。乗るときを考えると、東口の方が待つ人が多いので、東口に作った方が利用しやすいという理解で良いか。  
→そういった特性に加えて、単純に東口を使われる南からの利用者が多いので、東口の方が適しているという考えである。
- 19ページに近隣駅における都市整備との住み分けとあるが、田村駅の駅勢圏のどの範囲の人たちが田村駅を利用する、ということを示しておいた方が良いと思う。  
→駅勢圏の考えは15ページに示しているとおり、駅勢圏は基本的に駅から半径2kmの範囲だが、おっしやる通り圏域外の人が田村駅を使用することも十分に有り得る。圏域外からの利用者としては、通勤通学の利用が主であり、これは将来見込みには含めている。また、駅の特長として、長浜から南へ行く際の出発駅としての機能や定期利用としての利便性による他駅との差別化ということを19ページに書いている。
- 車を利用する人は駐車場の値段やついでに他の用事が済ませられるかといった要素もある。そ

ういった条件が揃えば2kmより外の人でも利用する可能性はある。南側へ移動する理由として、長浜駅と田村駅で利便性の違いはあるのか。

→ワークショップでも出ていたが、単純に駐車場の料金が田村駅の方が安いという利便性がある。また、1日利用だとより南にある米原駅の方が値段は高くても便利だが、米原駅は田村駅と違って定期利用の駐車場が多くない。そういった点で定期利用者に特化した駅としての差別化ができると考えている。

- 19ページに予定総事業費があるが、パブリックコメント時にどの事業にどう使うのかという意見が出るのでは。予算の裏付けがないまま、漠然と示してもあとでつじつまが合わなくなるのではないか。

→事業費については、現在の時点で概算できる部分について積み上げたもの。まだ決まっていない部分もあるので、積み上げとして何と何を足したらこうなる、という具体的な内容はまだ示すことはできない。事業費の見せ方については再度検討する。

## 5 その他

今後は2月中旬から3月中旬にかけてパブリックコメントを実施し、ご意見を反映したものを基本計画(案)として第6回推進会議でお示しする。時期は4月中下旬を予定しているが、改めて日程調整のご連絡をさせていただく。基本計画(素案)については、ご欠席されている方々からも含め、推進会議後にもご意見を頂きたいと考えている。期限は今月の31日までとする。

以上